Excellent
優秀賞
Prize

06
Haori Cup
C／奈須田 友也

この作品は博多曲物と波佐見焼を組み合わせて作られました。福岡の伝統工芸である博多曲物を使ったスリーブは保温性に優れ、かたや長崎の波佐見焼は薄地でスタイリッシュ。両者の機能を組み合わせ補完しあうことで、肌に優しく、冷めにくく、しかもクールなデザインが誕生。まるで磁器のカップが木の着物を羽織っているようなシルエットからネーミングされた「ハオリカップ」という名前も新鮮。カタカナ表記が示すように、既に海外のユーザーを獲得し、販売の視点はインターナショナルです。今、多くの伝統産業が継続の危機にあります。しかし、このように複合化する事で、より素晴らしい伝統工芸に生まれ変わる希望をこの作品は雄弁に伝えてくれました。（講評／大倉 紀子）

Excellent
優秀賞
Prize

07
神棚「奉り」
C／有限会社 アマート

昔の家には神棚や仏壇などがあったが、戦後、住宅事情や宗教観の変化などで特に神棚を供える家は少ない。しかし最近、歴女の増加など、日本の宗教観を大事にし歴史的な事項に関心を寄せる若い世代が増えてきている。「神棚『奉り』」は、場所を選ばない神棚のあり方を、実に魅力的なスケールと質感で表現している。「お札」の存在を3つの小窓から何気なく感じさせる見え隠れの技法や、「献上柄」を取り入れた福岡らしさの演出など、展開の広がりも楽しい。神棚の機能をミニマムにまとめ、木質を生かした「神棚『奉り』」のシンプルさは、忘れていた日本人観を呼び起こし、新しいライフスタイルを提案するデザインとして高く評価された。（講評／森田 昌嗣）

Legendary
Luxury Brands
良品物語賞
Prize

08
田中の麺家 中華シリーズ 8食
C／田中製麺
D／トライブスデザイン

冷蔵しなければ海外に持っていくことが難しい通常の半生麺とは異なり、この商品は常温で90日間の長期保存が可能。日本の原材料を使用し、美味しい日本のラーメンの「本場の味」を海外に伝えることのできる商品となっている。中国国内で日本のカップラーメンの販売が伸びなくなってきている現在、半生麺のこの商品は新たな市場を築いていく可能性も秘めている。（講評／葉 健栄）

良品物語
株式会社国際マーケティングサービス
代表取締役 葉 健栄

Makuake
Prize
Makuake賞

09
Haori Cup
C／奈須田 友也

製品化まで数多くの困難があったと思いますが、博多曲物と波佐見焼という2つの世界をつなぎ意匠を工夫して組み合わせることで、今の市場トレンドにもマッチした新たな価値を創出されています。
またスタイリッシュな器とスリーブの組み合わせが実は伝統工芸である、という見せ方は他の伝統産業にとっても市場拡大のヒントとなる素晴らしい先行事例になっています。
（講評／木内 文昭）

Makuake
株式会社サイバーエージェント・
クラウドファンディング 取締役
木内 文昭

10 リズムな木 rhythmical-wood

C／筑豊地区木材協同組合　D／荒木 光子

木材に切れ込みをいれるという、簡単な加工によって音階が作られています。これまで気が付かなかった木材に対する親しみが感じられ、都会で生活していても自然の優しさや楽しさが自然なスタイルで提供される商品です。今後さらにデザイン性を高めることで、木材の温かみや心地よさを教えてくれる優しい製品になることでしょう。（講評／中島 浩二）

11 根根菜菜 炊き込みご飯の素 三種セット

C／有限会社 丸蜂食品　D／松石博幸デザイン事務所

かしわゴボウと、ミニとまと、筍の3種の炊き込みご飯の素。その3種類の野菜の材料を日本画のようなタッチのイラストに仕上げ、商品タイトルは3人の書家による端正な味わいある書で表現されている。京築や北九州地区を代表する地域の自然の素材を感じさせる手づくり感のあるパッケージデザインとなっている。働く女性の食生活を豊かにしたいという企画主旨を持った商品だ。（講評／かねこしんぞう）

12 キクラゲネコの砂払い

C／okagesama杉本　D／trythink

ふんわりと印象に残る柔らかな猫のイラストは、宮若に伝わる招福のシンボル「追い出し猫」の民話をメルヘンタッチで表現し、目を引くパッケージ。輸入乾燥木耳がシェア98％の中、あえて自社生産で国産生木耳にこだわる。体の中の悪いものを追い出す木耳の特性を絡めて、「キクラゲネコ」というキャラクターに設定したネーミングも面白い。宮若市観光振興の特産品として一翼を担って欲しい。（講評／重松 依子）

13 にじいろ甘酒

C／浦野醤油醸造元　D／加来野デザイン事務所

創業文政年間の醤油醸造の若女将が、できたての生糀と福岡県産農産品を原料に無添加、砂糖不使用、アルコールゼロで作った甘酒。一番の特徴は米糀のプレーン味のほか、ブルーベリー・博多あまおう・八女抹茶・紫いも・巨峰など季節によって変わる旬の美味しさのバリエーション。それぞれの素材の持つ自然な彩りの楽しさを、ネーミングとラベルで見事に表現し、ギフト商材として選ぶ楽しさもある。（講評／重松 依子）

14 手土産お詰め

C／有限会社 原野製茶本舗　D／ザ・パック 株式会社

全国的に茶所として定評のある、山深い奥八女で栽培された煎茶と焙じ茶。そして氷砂糖仕立てのようかんと、お茶を包み込んだ金平糖の詰め合わせ箱。パッケージは緑茶色と白色を基調として、特徴あるロゴマークと組み合わせたデザインは、こだわりを持った商品の魅力を引き出している。小箱や、紐やタッグにも神経が行き届いていて、箱を開ける楽しみの趣向が凝らされている。（講評／かねこしんぞう）

15 AMANERO

C／JA柳川　D／LOCAL&DESIGN 株式会社

柳川特産「あまおう」の極上の甘さと、東峰村産の激辛食材「ハバネロ」を組み合わせたフルーツソースは、誰もが試してみたくなる一品。パッケージに本物の「あまおう」をハートに型抜きしてモチーフにしたデザインは、繊細で優しく、食卓にも身近に感じられる。ボトルにあしらわれた2色の商品ロゴにより、絶妙な甘さと辛さのバランスを表現し、様々な料理との相性の良さを想像させる力がある。（講評／鈴木 貴之）

16 motte

C／タンデム

二輪車に二人乗りする時に後部座席者がつかむためのタンデムグリップだが、運転者のベルトに装着するという発想が新しい。簡単に装着することができ、コンパクトで装着時も目立たず、降車後そのままカフェやショッピングに行っても違和感がない。熱可塑性エラストマーの一体成型で作られ、丈夫さと軽量さを両立させると共に、金具等を使用せず万一転倒した場合の安全性にも配慮されている。（講評／杉本 美貴）

17 パシーマの汗とりインナーキャップ

C／龍宮 株式会社

自社の技術や製品の特徴を活かして新商品を考案する際、顧客視点で開発を進めることでユーザーのニーズを捉え、新たな用途に展開できた好例である。現在の主な市場である製造業や建設業だけでなく、野球やスノーボードなどのスポーツ、自転車やバイク、登山などヘルメットを使う様々なシーンに応用できる可能性を秘めており、新市場開拓に向けた生地の色柄やパッケージの展開も期待する。（講評／杉本 美貴）

18 豆花水 しゃくなげ花酵母シリーズ

C／株式会社 豆腐の盛田屋

原材料で使用しているしゃくなげをイメージさせる綺麗な赤色の容器は、一目で女性を美しくする為の製品であると伝わる。デザインも曲線を主体とした女性が好みそうな可愛らしさがあり、使いやすさも意識されている。中身についても伝統的な豆腐造りの技術を応用しており、どんな効果があるのか使ってみたいというワクワクした期待感を抱かせてくれる。（講評／塚本 邦大）

19 小皿 豆皿 豆豆皿

C／有限会社 廣松突板　D／九州産業大学 芸術学部 青木研究室

先ずはデザインの可愛らしさと新しさに目を引かれる。木の素材感もやさしい雰囲気を演出しており、ティータイムや食卓を和やかにしてくれそう。機能的にも優れており、1枚から3枚まで使い手のアイデアでいろんな用途に活躍できそうで、使用する楽しさがある。素材は地元大川産ということで地域産業への貢献が期待できる点も評価したい。（講評／塚本 邦大）

20 MIDORI -sasa veitchii natural soap-

C／株式会社 三星舎　D／柚山デザイン 株式会社

高級アクセサリーを思わせるようなパッケージはギフトで贈られると期待感が高まると思う。印象としては非常に洗練された海外ブランド製品と思ってしまうが、中身は隈笹という純日本素材を使用した国産品という、良い意味でのギャップも面白い。石鹸本体については魅力的な深緑色で、こちらについては日本的な繊細さやきめ細かさを感じ品質の高さが伝わってくる。（講評／塚本 邦大）

21 博多一筆箋 五色献上柄（両面、片面）

C／株式会社 レイメイ藤井

贈り物に気持ちを添える一筆箋を伝統の「博多五色献上」柄で仕上げています。これまでありそうでなかった縦にも横にも使える仕様、年齢性別を問わず使える色味。また、紙質にもこだわり、柔らかな風合と筆記具を選ばない滑らかな書き味が手に取る人を魅了します。博多の方はもちろん、国内や諸外国からの旅行者にもきっと喜んでもらえる粋な一筆箋です。伝統継承をしながらも、新たなマーケット拡大も期待できる点も評価に繋がりました。（講評／岩崎 充子）

22 沖ノ島 朱シリーズ

C／粋工房 株式会社

名前の通り、宗像・沖ノ島近海の海水で作られた天然塩を使って、難しいとされる美しい朱のガラス器を生み出しています。一度目にすると残像を残すほどインパクトある色、ひとつひとつ手作りの温かみも感じられます。商品パッケージの色もトーンを合わせ、モダンなテイストで商品を引き立てています。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、世界遺産登録を意識しており、現地で製塩される塩を使用することで、産業振興の一助としても期待できます。（講評／岩崎 充子）

23 スミスプーン

C／前原工房

それぞれ微妙に異なる瓶の形状に合わせ、内容物を最もキレイに掬い取ることができるよう設計された、いわばオーダーメイドスプーン。微妙な形状の違いを少量で作り分けができるのは手作り工房ならではの繊細な仕事。どちらかと言うと瓶製品メーカーのノベルティ需要を狙ったもののようだが、高い加工精度や美しさはプレミアムなギフト商品としての資質も十分兼ね備えていると思われる。（講評／野村 純）

24 Soejima Tatami Insole

C／株式会社 添島勲商店　D／alters

畳に上がった瞬間の心地よさは、通常、靴を脱いだ後に感じるものだが、本製品は靴を履いている時にもその感覚を享受できるという発想が何より新鮮。通気性、保湿性といったいぐさ本来の特性を生かした機能性、年齢や靴の種類を問わないデザインバリエーション、脱ぎ履き時のズレを防ぐ工夫など、よく練られた商品性と、地場筑後の素材を使った地域発信性の高さも高評価。（講評／野村 純）

25 フレキシブルノート・CHIDORI・サンミリーフ・サンミリーフ1/4

C／株式会社 三光　D／九州大学　※4点合わせて1件としての入賞

九州大学の学生さんとの共同開発で生まれたこのノートは、現状の商品に飽き足りない多くの人々に歓迎されるに違いありません。罫線や幅に工夫があるノートはストレスを感じず美しく記入できる優れもの。ページ数を少なく軽くしたノートは、多数冊をセットで持ち運べ、ブックスタンドにもなり、様々なシーンで活躍しそうです。こういう物が欲しかった！と喜ばれる商品開発を今後も大いに期待します。（講評／大庭 香代子）

26 （仮称）くるんころん

C／モチャ（トポスデザイン）

くるんころんは、子供のためにつくった様々なおもちゃたちの一つです。これらは安全でまた質感の吟味された木を用い、大川の木工工場で木の専門家により加工されている、思いと技術の詰まった商品です。くるんころんは、木だけでなくガラスの玉の楽しい動きと素材達が触れ合う時の音やカタチの変化で、子どもたちの手の感覚や目感覚など様々な気持ちも一緒に育ててくれるおもちゃです。（講評／尾方 義人）

27 アップサイクルシートベルトバッグ

C／天佑 株式会社 就労継続支援A型 ディアスポラ　D／綱田製作所

アップサイクルは、新しい概念と方法です。自動車の寿命は尽きても、シートベルトなどの部品が劣化・機能低下しているわけではありません。そのような素材を見つけ出し、製品化した妙々たる商品です。また、福祉事業所との連携で雇用も生みだそうとしています。なによりも肝腎なのは、そのようなことを知らない消費者が冀求する商品をデザインできているところです。様々なアプローチが大きな価値を造っています。（講評／尾方 義人）

28 美爪専科ネイルアップギフトシリーズ【オイルミスト】／【コラーゲングローブ】

C／Product Factory　D／小笠原 愛

若い女性達の感性とエネルギーを感じる作品。素晴らしいのはマーケティングに力を入れたところ。半年をかけて事前に消費者調査を行い、開発ターゲットをネイルケアと決定。保湿に優れたオイルミストと手袋を開発した。併せて買って3000円強の価格設定はギフト需要にピッタリだし、女ゴコロをくすぐる可愛いデザインテクニックも上手い。働く女性が増える今後に向け可能性の高い作品です。（講評／大倉 紀子）

29 挑朕堂 project 2016

C／有限会社 シラキ工芸　D／trythink

八女の伝統工芸である八女提灯の生産は、様々な行程プロセスがあり、非常に多様な分業された会社や職人さんによって成り立っています。その提灯の火袋・絵付けを取り出し、また革新させ、今日的でありながら郷愁を感じる懐紙や貼り箱への多様な展開はシンプルに楽しく美しいものです。また火袋が専門であった会社が逆に新しい提灯を提案することは伝統工芸の新しい発展の仕方を傍証しています。（講評／尾方 義人）

30 mamoru

C／楽子　D／室井 友希

シンプルで達意を旨とするカタチでありながら、驚くほどたくさんの利用の仕方があります。それはありがちな、使いはしないけれどバリエーションだけはある、というような商品とは異なり、介護者・被介護者の行動・行為や行状から生まれた機能に基づくカタチになっています。県内の製造工場とも連携し、「とにかくすこしでも、現場の問題を解決したい」と言う製造者の思いと工夫と技術が詰まった商品です。（講評／尾方 義人）

31 わた入れジャケット

C／宮田織物 株式会社

宮田織物は創業100年の歴史を誇る日本屈指の半纏のメーカーですが、まさに今回の商品は時代を生き抜く経営者の魂を表現したもの。従来の半纏の形を残しつつ、前面にファスナーを使う事で来年のファッションを先取りし、上手にトレンドを表現しています。しかもデザインをシンプルに抑えた事で男女兼用や親子リンクを可能にしました。次の時代を見据えた素晴らしい商品です。（講評／大倉 紀子）

32 tsundoku

C／株式会社 オークマ　D／designship TORA

商品名の「tsundoku」。日本語に変換すると「積んどく」。ネーミングの重要性を十分に理解した商品である。文庫本をまとめて持ち運ぶという発想と収納する際、縦置き、横置き、使う人のニーズに対応できるアイデアが素晴らしい。また、両置きを実現するにあたり上下の板が背板から10㎜程度突き出し、浮いた状態をつくり安定性も考慮に入れている点も評価に値する。（講評／津岡 卓央）

33 Moss Art（苔テラリウム）

C／障がい者就労支援A型事業所 合同会社 宮若ワークステーション

この商品は、障がい者就労支援施設・宮若ワークステーションの足元の若宮の自然に着目し、日頃、自然から離れて都会で暮らす人々や自然に関心のある人を対象として、自然の豊かさ、大切さと癒しを提供するとともに、自然保護やその啓蒙を目的としたプロジェクト商品でもある。その中心は、山口川、犬鳴川の上流域で育った自然の苔であり、インテリア性があってオブジェとしても楽しめる。（講評／青木 幹太）